

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070800885
法人名	(医)福満会
事業所名	グループホーム八重桜
所在地	福岡県福岡市東区西戸崎5丁目8番54号
自己評価作成日	平成24年12月29日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームの建築デザイン自体に趣があり、静かで落ち着いたゆとりのある住環境で、居室も日当たりがよく明るい。庭も広く緑に囲まれており、季節感を感じられるとともに、散歩をしたり、天気の良い日に食事をしたりと入居者とご家族、スタッフの交流の場となっている。毎月作っている、利用者と家族向けの便りなどで、家族への報告・連絡・相談をこまめに行っている。地元の魚屋さんからとれたての新鮮な魚介類を仕入れたたり、手づくりのおやつ、管理栄養士によるバランスのとれた食事を提供している。気候の良い日には、個々の希望に応じて、ドライブや外食、ショッピングにも出かけている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php</a>
----------	---

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

老舗和風旅館を彷彿とさせるたじろのグループホームである。室内は、落ち着いた程良い照明の中、在時を偲ばせる調度品がさりげなく配され、心地良いくつろぎの空間作りがなされている。隣には母体法人が運営する介護老人保健施設があり、職員と入居者は、行事や研修会、各委員会活動、各種カルチャー講座の利用、防災訓練等で、日常的に交流・連携が図られ、各方面で活発な取り組みがなされている。また法人内には、職員から構成される「みつみ座」という劇団もあり、その活動は国内はもとより、広く海外にも及び、その公演活動は、入居者の楽しみもさることながら、ボランティア活動や職員教育の一旦を担っている。しかし、職員は、このようなユニークな活動や法人全体の組織的な取り組みに甘んじることなく、日々の業務に精励している。その取り組みは、事業所内随所に確認出来る。入居者一人ひとりの潜在化するニーズを掘り起こす独自のツール「ライフヒストリー表」や「ひもときシート」はその証に他ならない。入居前の自室の写真が添付されたアセスメントからは、職員が一人ひとりの暮らしの空間作りに誠実に向き合おうとする真摯な姿勢を感じる。他にも好みの器の使用、晩酌の時間、昔馴染みの故郷の祭りへの参加、誕生日をまとめてせず、その日に好きな食事で祝う等、「普通の暮らし」が確かにある。この「普通の暮らし」の回復に、日々地道に取り組みGH八重桜は、年間目標に「日本一の施設を目指す」掲げる。この道のりが大いに期待出来る事業所である。

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成25年2月16日	評価結果確定日	平成25年3月30日

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「共生」～共に生きる～という理念を掲げている。「地域密着型サービス」の「地域」という文言はないものの「地域」を含めた「共生」～共に生きる～という内容である。法人内の研修時に、理事長の理念に関する講話を聴くことで理念の共有に努めている。また、年間目標を掲げること、実践に繋げている。	設立時より、地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を作り上げている。その内容は、地域、認知症高齢者、障がい者との共生を掲げたもので、普遍的でありながらも、当法人の事業内容に深く根差した独自のものである。年度初めの理事長講話(DVD化により広く伝達を図る)を始め、理念を踏まえた年間目標の設定、及び確認作業を通して、職員間で共有を図り実践につなげる仕組みを確立している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	同敷地内の介護老人保健施設の利用者や職員との日常的な付き合いがある。また日頃の買い物も地域の商店を利用したり、地域行事へ参加したりとなじみの関係が出来ており、交流をはかっている。	自治会に加入しており、回覧板や公民館便りを通して行事事内があり、地域行事に参加している。夏祭りの山笠には職員も担ぎ手として参加している。また地域の踊りの会や、保育所の園児の訪問、中学生の職場体験実習の受け入れ等もあり、日常的、かつ幅広い地域とのつきあが見られる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアの受け入れなどすることで、ホームで行っている認知症ケアの実際を体験して頂いている。また、地域の方に向けての認知症ケアに対する理解や支援を行うため、「認知症サポーター養成講座」の講師も務める。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームでの日常生活の様子や家族との交流風景を伝えている。また、地域行事の情報交換を行い、地域との連携に努めている。地域防災訓練にも参加している。	地域住民や行政、近隣のグループホーム職員も参加して、2ヶ月に1回開催している。運営状況や近況報告を行いながら、忌憚のない意見交換により、参加者(特に地域)からの意見・提案を積極的に受け付けている様子が議事録より確認出来る。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への参加を呼び掛けたり、集団指導や市の研修に参加することで、協力関係を築くようにしている。	平素から相談や報告、情報交換、研修会への参加等を通して、「顔の見える」関係を構築している。また管理者が認知症サポーター養成講座の講師を担う等、積極的に連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修や勉強会を通し、スタッフへの周知を行っている。玄関については、外部からの侵入を防ぎホーム内からの出入りは自由にできる状況である。入居者が外に出られた時は、入居者の意思を尊重し付き添うように心掛けている。	職員は、隣接する同一法人の介護老人保健施設と共同で委員会を組織し、勉強会や研修会を通して、広く学び、身体拘束の対象となる具体的な行為、及び弊害を理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関の施錠もなされていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会や研修へ参加することで、学ぶ機会を設けている。参加できないスタッフに対しては、資料を回覧する等して対応している。		

福岡県 グループホーム 八重桜

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加することで、学ぶ機会を得ている。現段階で入居者に対し、支援するまでに至っていない。	現在、制度を活用されている方はいないが、外部研修等に参加し、制度の意義や活用について理解を深め、職員間で問題意識の共有に努めている。今後は、家族や地域に向けた、より積極的な情報提供が期待されます。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	その時の状況に応じて、説明していくことで、現段階で、家族に理解、納得していただけるよう努めている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々のコミュニケーションを大切にし、その中から要望や意見を聞くことで、運営に反映できるよう努力している。	法人理事に直接届く「満足度カード」の導入や、提案箱(用紙も準備)の設置等、意見・要望を積極的に取り入れ、運営に反映する仕組みを作っている。また家族が忌憚なく意見交換や提案をしやすいように、BBQや忘年会を催す等の工夫も行っている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフから意見や提案が出た時は、会議を通して代表者に伝える機会を持っている。また定期的な個人面談や、職員相談シートを活用し、スタッフの声に耳を傾けるようにしている。	定期的な会議だけでなく、年2回の個人面談や、法人代表者に直接届く「職員提案シート」の導入等、積極的、かつ効果的に職員の声を広く取り入れ、運営に反映するよう努めている。職員へのヒアリングから、実際に、職員提案が取り入れられ、具体的に改善が図られていることが確認出来た。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者への手紙や面談の機会が得られている。また、職員の研修の機会も得られている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	入居者から介護のニーズをお伺いし、スタッフの性別に関しては考慮している。また、就業後も施設内、施設外の研修等に参加する機会がある。	職員の採用にあたっては、ハローワークを通して行っており、性別や年齢等を理由に採用対象から排除することはない。定年年齢についても、60歳から65歳に引き上げる等の取り組みを行っている。また行政や公的機関の研修については、研修費や交通費を負担する等の配慮を行っている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	施設内、施設外に研修への参加や、ミーティングを行う事で、スタッフに対する教育を行っている。	日常業務を通して、単に福祉の技術論に止まらず、「人として」の視点を大切に教育を行っている。また隣接の同一法人の介護老人保健施設と連携して、全職員を対象とする研修会を実施する等、人権啓発に努めている。	

福岡県 グループホーム 八重桜

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフの段階や、個々の状況に応じて研修に参加している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加した際に同業者と交流する機会が得られている。また、近隣の事業所ともドライブや地域行事への参加先で、入居者同士の交流する機会もある。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に管理者・介護支援専門員・居室担当者が自宅訪問にてアセスメントを行い、ご本人の希望や抱えている不安等に耳を傾け、入居後のケアプランに活かしている。また、入居してすぐは環境の変化等で不安も大きいと思われる為、細やかなコミュニケーションを図る。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の自宅訪問にて、家族へのアセスメントも行っている。その中から、希望や抱えている不安をケアプランに反映している。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	スタッフや介護支援専門員とのカンファレンスやミーティングを通して、本人や家族の思いや希望に沿うように努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として、入居者から教えていただくことも多く、同じ時間や空間を共にすることでお互いの関係づくりに努めている。すべてにおいてお手伝いするのではなく、入居者のできることを引き出すよう支援している。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や受診後、状態に変化があったときには、そのつど状況を伝えている。また、入居者と家族の時間大切にするためにも食事会を企画したり、協力していただけることは声かけしている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時は慣れ親しんだ家具を搬入、配置している。知人の来居や、地域への外出、地域行事への参加等の支援を行っている。また、趣味や好きなことをケアに取り組んでいる。	「ライフヒストリー表」をもとに、潜在化する馴染みの人や場所の掘り起こしに取り組みながら、関係の継続に努めている。昔馴染みに地域行事に参加したり、手紙や電話を活用して、家族や友人・知人が訪れやすいアプローチを行う等、馴染みの方々と、より密な関係が築けるよう支援している。	

福岡県 グループホーム 八重桜

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	コミュニケーションが困難な入居者の場合はスタッフが仲介に入っている。また、毎日の食事やおやつ、入居者の誕生日会、レクリエーション、外出を通して入居者同士の関わりを大切にしている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された入居者のところへ訪問(入院中の病院や入所している施設への訪問)したりと、入居者同士やスタッフ共々関係が続くようにしてる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	3ヶ月に1度ケアカンファを実施。アセスメントの中に、ご本人の声や希望・不安・訴えを取り込み、ケアプランに活かしている。	平素から入居者とのコミュニケーションを大切にし、何気ない会話や行動、しぐさを通して、思いや意向の把握に努めている。また「ライフヒストリー表」や「ひもときシート」等の独自のツールを活用し、潜在化する思いや意向の掘り起しを行うとともに、困難な場合についても、本人本位の検討を行っている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にライフヒストリー表の記入を依頼している。また、居室の家具や配置も入居者の慣れ親しんだ環境に近づくように支援している。自宅訪問でのアセスメントや以前利用していたサービス事業所からの情報をケアに活かすように努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	経過記録や申し送りノートへの記入によって情報の共有に努めている。また、スタッフ同士、日々のコミュニケーションを大切にしており、入居者の変化等に気付くよう努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入退院時や、心身の状態に変化が見られた時、カンファレンスを行い、状況に合わせてケアプランを作成し、対応している。	詳細な記録の見られるアセスメントをもとに、本人のニーズを可能な限り明確にし、家族や関係者の意見、職員の気付き等を参考にしながら、現状に即した計画を作成している。見直しについても、独自の細やかな項目からなる「観察記録」を通して、定期的に行っている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の経過記録をこまめに行っている。些細なことでも気付いた事があると、申し送りや、スタッフ同士のコミュニケーションによって情報の共有に努めている。また定期的なモニタリングを行い、ケアプランの見直しを行っている。		

福岡県 グループホーム 八重桜

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ご本人の状況の変化に合わせて、柔軟な対応ができるように他職種の意見を取り入れるように心掛けている。また季節感の味わえる行事への参加や外出の計画をケアプランに反映させている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事に参加することで、地域の方々との交流に努めている。また、慣れ親しんだ地域への外出等も行っている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に協力病院をかかりつけ医とし、受診の支援をしている。ご本人、ご家族が希望される場合は受診の付き添いもお願いしている。受診結果について、随時家族へ連絡している。	かかりつけ医の受診を尊重しながらも、基本的には協力医をかかりつけ医とし、日常的に連携が図られ、一人ひとりの状態に応じた、より適切な医療が受けられるよう支援している。他科受診についても職員が対応している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	容態の変化があった場合は、その都度、職場内の看護師や、隣接する施設、協力病院の看護師に指示を仰ぐなど連携を図り、入居者の緊急時に備えている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中であっても、病院へ訪問し、医療関係者との情報の共有に努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	病気の進行等の変化によって、ご本人やご家族の気持ちも経過と共に変化するので、そのつど重度化や終末期についての話し合いをしている。また、かかりつけ医の協力を得ている。	指針を作成し、職員間で方針を共有している。具体的には、本人・家族の希望を最大限に尊重し、医師・看護師と連携を図りながら、主治医の意見に基づく可能な限りの対応を行う方針である。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	状況に合わせたマニュアルがあり、スタッフへの周知に努めている。		

福岡県 グループホーム 八重桜

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、災害時の避難訓練を実施している。また、マニュアルを作成し、スタッフへの周知に努めている。訓練の実施内容を運営推進会議にて、地域の方にも報告し協力を得られるような体制を築くよう努めている。地域の防災訓練にも参加している。	年に2回、隣接の介護老人保健施設と合同で、機械設備の点検を始め、夜間想定も含む避難訓練を実施している。消防署の立会も確認出来る。また地域の防災訓練に参加する等、地域との協力体制も構築出来ている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の納得がいくまで話を聞いたり、その方の性格や状況に合わせて対応するよう心がけている。	職員の都合や業務優先をすることなく、まずは一人ひとりの思いを受け止めることの大切さを、職員間で共有し、傾聴に努めたり、言葉選びに配慮する等の対応を行っている。また詳細なアセスメントから把握した一人ひとりの大切にしているものや、習慣等を尊重するよう努めている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ホームで生活していく中で1日の流れ等決まっておらず、入居者それぞれのペースにてのんびりと生活して頂いている。入浴や外出の希望があれば、そのつど対応し希望に沿えるよう努めている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースを大切にし、その日その日をどう過ごして頂くかご本人の希望が叶うよう支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の着たいものを着て頂いている。入浴やヘアカットに関しても入居者の希望に沿えるよう支援している。また、ビューティーケアへの参加や、外出して買い物等の支援を行っている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食卓が3つあり、気の合う入居者と食事が出来る環境にある。入居者の誕生日には、好きなメニューにするなど工夫している。食器拭きや台拭きの後かたづけの手伝いもして頂いている。	献立は、入居者の嗜好や状態を踏まえ、管理栄養士が作成。屋食のみ、隣接する法人厨房より運ばれてくるが、朝・夕は事業所で調理している。旬な食材を使い、器も個人の好みに合わせた物が使用されている。準備や片付けについても、各自が出来る範囲で役割を担っている。食事は職員も同席し、会話が弾む和やかな雰囲気の中、同じものを食している。時に「わくわくランチ」や個別対応の外食等の気分の変わる楽しみも用意されている。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の摂取量に合わせた盛り付けを行っている。苦手なメニューの時は、別メニューに変えたりと対応している。また、主治医の指示にて管理栄養士による栄養管理や水分摂取の管理、食事の形態を口腔状態に合わせて提供する等、ケアプランに反映している。		

福岡県 グループホーム 八重桜

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者一人ひとりに合わせて、口腔ケアの声かけや見守りを行っている。また必要に応じて、ケアプランの重点項目に掲げる等して対応している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者に合わせ、定期的にトイレ誘導を行う事でトイレでの排泄を促している。	「経過ファイル」にて、一人ひとりの排泄パターンや、習慣を職員が把握・共有しており、適時言葉掛けを行いながら、トイレ誘導を行い、排泄の自立に向けた支援を行っている。居室によっては、トイレが完備されている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘しないよう、こまめな水分補給や腹部マッサージ、緩下剤を使用した予防に努めている。又、排便に関しては全スタッフが情報を共有できるよう、確認しやすい経過ファイルにチェック項目を作っている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	自発的な入浴が困難な入居者には、3日に1度のペースで入浴を促し、清潔保持に努めている。またその日の状態によって対応しており、希望時はすぐに入浴できるよう支援している。	基本的には、午後からを入浴時間としている。希望すれば、毎日も可能である。好みに応じた入浴剤や、シャンプーを使用するなど、入浴の時間がゆったりと快適なものとなるよう努めている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、傾眠傾向の入居者は、リクライニングチェアを使用していただいている。また夜間覚醒している入居者には、お茶や饅頭などの軽食を提供し、入居者に合わせた睡眠ができるよう支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全入居者の内服している薬がすぐに見られるよう、ファイルしている。またセットミスや服薬ミスがないように複数のスタッフが関わる様、ダブルチェックしている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	買い物やドライブ、散歩などの希望があった時は、少しの時間でも気分転換して頂く為、対応している。洗濯物たたみや食器拭きなど、入居者に合った役割が持てるよう支援している。		



福岡県 グループホーム 八重桜

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	普段の会話から、入居者の行きたいところなどの希望を聞くことで、可能な限り対応している。また隣接している老健の行事や地域行事への参加、ドライブに出かけたりと、その日その日出来ることを一緒に行っている。	隣接の介護老人保健施設のカルチャー講座に通ったり、地域行事への参加、季節のドライブ、近隣の商店やショッピングモールへの買物、カフェや和菓子屋に出掛ける等、日常的に一人ひとりの希望にそった外出支援を行っている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理の困難な入居者に関しては、スタッフが管理しているが、個人で財布を管理している入居者もいる。買い物に行ったときなど、ほしいものが購入できるよう、見守りや一部介助にて支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所有している入居者もいる。希望に応じて、家族や知人と電話したり、手紙や年賀状を出したりと支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物自体に趣があり、共有スペースには季節の花や入居者の作品、毎月作成しているカレンダーを掲示している。スタッフの足音や建物内の光を調整したり、夕方は勝手口に暖簾を掛ける等入居者の混乱に繋がらないように配慮している。	和風老舗旅館を思わせる内装に落ち着いた照明、さりげなく配された往時を偲ばせる調度品の数々、また暖炉や、ピアノ等のアクセント。細部に至るまで、落ち着いた程良い統一感でまとめあげられ、心地良くつろぎの空間が作り上げられている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思い思いに過ごせるよう、各所に椅子を置いている。共有スペースでは入居者が自由に過ごす事が出来る。食事のテーブルも3か所あり、入居者同士気の合う方々と、食事が出来るようになっている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、自宅訪問を行い、本人のなじみの空間に少しでも近づけるよう情報収集している。また、家族に対し、本人の使いやすいものを持ってきていただけるよう相談している。	各居室には、各自が使い慣れた家具や、趣味・好みをうかがわせるものが随所に見られ、本人本位の暮らしの空間作りがなされていることが確認出来る。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の扉のデザインや間取り、壁紙が各々異なることで、自分の部屋を認識できるよう配慮している。また、入居者より希望があれば表札を掲げている。ホーム全体がバリアフリーである。		